

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1271500884
法人名	有限会社 徳志会医療研究所
事業所名	グループホーム 輝の杜
所在地	千葉県茂原市緑ヶ丘4-3-2 (電話) 0475-20-2511

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成20年 9月16日	評価確定日	平成20年10月 6日

【情報提供票より】(平成20年 8月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	2~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 ~ 62,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 家賃2ヶ月分) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
		または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要(8月 26日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団徳志会 宮本内科医院 / 緑ヶ丘歯科医院 医療法人社団三愛会 君塚病院 / 医療法人社団白百合会 大多喜病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑の多い閑静な住宅街の一角に、「グループホーム 輝の杜」がある。3階建ての建物で、1階がデイサービス施設、2~3階がグループホームとなっている。施設の周りには、系列法人である内科医院の他にも提携の歯科・整形外科等の医療機関が揃っている。各病院と連携体制が整っており、入居者も家族も安心して生活が出来る環境にある。職員は、入居者や家族から頼られる存在になる事を目指して介護力を磨き、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、入居者と地域住民や子供達との交流を大切にしながら、明るく元気で真心のこもった支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された改善点として、鍵を掛けないケアの実践と災害対策について挙げたが、職員会議で検討すると共に、運営推進会議の議題に挙げ、自治会や近隣に協力を呼びかけ適切な改善を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を作成し、外部評価の意義を理解している。業務に対する気付きを大切にしてサービスの質の向上に繋がりたいと考えている。評価結果については、改善点を職員会議で検討すると共に、自治会や近隣とも協力して適切な改善を図っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、運営推進会議が開催されている。活動状況の報告、情報や意見の交換等を行い、施設の地域理解と協力の促進を図っている。また、少人数での開催や議題、雰囲気作り等を工夫し、運営推進会議の継続と内容の充実化を図っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置していると共に、面会時に意見や要望等を確認している。挙げた意見や要望に関しては、職員会議で検討の上、適切な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会主催のゴミゼロ運動や地域行事へ積極的に参加していると共に、近隣住民とは挨拶を交わしたりおすそ分けを頂く等の関係作りがなされている。また、小中学校の運動会や文化祭への招待を受け、入居者・職員共に参加し世代間交流を図っている。地域老人会「悠々クラブ」の来訪やボランティアの受け入れ、併設のデイサービスのレクリエーションや行事等への参加等でも外部との交流を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「介護に真心を・相互信頼に答える・地域と交流し協力体制を持つ・介護力を磨き総合力を高める」等の法人の理念を軸として、一人ひとりに合わせた柔軟な支援とサービスの提供に努めている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念が掲示されていると共に、職員会議では、常に理念を確認しながら、反省や指導が行われている。職員全員が理念を意識し、入居者が安心して楽しく健康的な生活が送れるよう支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催のゴミゼロ運動や地域行事へ積極的に参加していると共に、近隣住民とは挨拶を交わしたりおすそ分けを頂く等の関係作りがなされている。また、小中学校の運動会や文化祭への招待を受け、入居者・職員共に参加し世代間交流を図っている。地域老人会「悠々クラブ」の来訪やボランティアの受け入れ、併設のデイサービスのレクリエーションや行事等への参加等でも外部との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を作成し、外部評価の意義を理解している。業務に対する気付きを大切にサービス品質の向上に繋がりたいと考えている。評価結果については、改善点を職員会議で検討すると共に、自治会や近隣とも協力して適切な改善を図っている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議が開催されている。活動状況の報告、情報や意見の交換等を行い、施設の地域理解と協力の促進を図っている。また、少人数での開催や議題、雰囲気作り等を工夫し、運営推進会議の継続と内容の充実化を図っている。		

【千葉県】グループホーム 輝の杜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは密に連絡を取り合い、情報交換を行っている。また、施設運営全般に関する質問や相談等を随時行い、問題の早期解決を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に入居者の生活状況等の報告を行うと共に、毎月担当職員が手紙での報告も行っている。また、2ヶ月に1回ホームだよりを作成し、施設での様子を写真入りで伝えと共に、行事への参加も呼びかけている。生活状況に変化があった場合は、随時電話連絡を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していると共に、面会時に意見や要望等を確認している。挙げた意見や要望に関しては、職員会議で検討の上、適切な対応に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ退職者は無く、人材は安定している。職員が意見を言い易い環境を作り、離職を抑える努力を行っている。入職のあった場合は、入居者へ紹介すると共に、ホームだよりに掲載し家族への紹介を行っている。また、玄関に職員全員の写真と名前を掲示し、入居者や家族に分り易く紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、研修案内を掲示し積極的な参加を促している。研修参加後は報告書を作成すると共に、報告会を行い情報の共有を図っている。また、必要に応じて運営法人の内科医による講習や事例検討等を行い、職員の育成に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に定期的に参加しており、情報・意見交換や勉強会等を行っている。また、相互の施設見学会も行われ、相互の優れた部分を取り入れながら、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時見学を実施していると共に、希望者には体験入居や短期利用も可能となっており、施設の雰囲気慣れてもらってから入居してもらっている。面接や訪問を通して本人や家族の意向を把握するよう努めている。入居後は職員が付いて、出来るだけ早く馴染み、安心して生活出来るよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「共同生活」という意識を強く持ち、入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っていると共に、互いに感謝し合い、共に支え合う関係を築いている。また、入居者を人生の先輩として敬い、豊富な人生経験から多くの学びを得ている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人や家族から意向や身体状況等を確認している。また、日々の生活の様子や職員の気付きを記録し、本人の意向の把握に努め、その人らしい生活ができるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画においては、本人や家族の意向を踏まえた上で、職員全員が情報や意見を出し合い、介護計画作成担当者が作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～半年に1回、計画の見直しを行っている。また、生活状況に変化のあった場合や必要であると判断された場合は、その都度見直しを行っている。見直しにおいては、本人や家族の意向を踏まえた上で、職員全員が情報や意見を出し合い、介護計画作成担当者が作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスとの合同行事やレクリエーション等の連携を通じて、外部との交流を図っている。また、デイサービスの機械浴槽を使用して、入居者の身体状況に応じた入浴支援も行われている。通院支援や買い物・美容院等、入居者の要望に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望のかかりつけ医への受診が可能となっている。系列法人が内科医院であり、医師への相談や往診が24時間体制で整っており、適切な医療支援を行っている。また、内科・歯科・整形外科等の病院が入居者の徒歩圏内にあり、待ち時間が無く受診出来るように協力を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化した場合は系列法人である医院の医師等を中心に入居者家族と話し合い、できるだけ本人や家族の意向に沿って方針を立てると共に、職員全員で情報を共有し、施設として出来る最大限の支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の書類等については、鍵のかかる部屋へ保管し個人情報の保護を図っている。また、広報誌等への写真の掲載については、家族の同意を得ている。職員は、入居者に対する接遇マナーに気を付け、個人のプライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課に取り決めは無く、一人ひとりのペースを大切に、入居者の希望に沿った支援を行っている。希望を言い出せない入居者に対しては、馴染みの職員がさりげない声掛けや提案を行うと共に、家族からも話を聞き、希望を把握するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や能力に応じて、調理や食事の準備・片付け等を共同で行うと共に、食材の買い出しや献立の作成等も一緒に行っている。また、出前や外食等を企画・実施しており、食に対する楽しみを広げている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望や状況に応じて回数や時間等柔軟に対応していると共に、併設のデイサービスの機械浴や洗髪台等も利用し、適切な入浴支援を行っている。また、安眠の為に足浴も実施されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。入居者は、家庭菜園・書道・裁縫・ボランティアによる生花教室等の多彩な趣味活動に自由に参加している。エアロバイク・マッサージチェア・メドマー等の機器を活用し、楽しみながら心身機能の維持・向上を図っている。また、誕生日会やデイサービス利用者との交流等楽しみある生活を支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて散歩や買い物を行っていると共に、定期的な外出会・外食会も実施されている。また、近隣託児所の子供達と散歩をしたり、小中学校の運動会や文化祭へ招待を受け参加する等、世代間交流も多く行われ入居者の大きな楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の観点から玄関の施錠を行っているが、入居者の希望に応じて開錠し、自由な生活の妨げとならない様に気を配っている。居室の鍵は設置されていないが、職員は入居者のプライバシーに配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設内には緊急通報装置や煙探知機、消火器が設置されていると共に、災害対応マニュアルや手順書が作成されている。地域の消防署の協力のもと、年2回の消防避難訓練を行っている。地域住民や入居者家族にも参加を呼びかけて実施しており、近隣との協力体制も築かれてきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や能力に合わせた適切な食事提供がなされていると共に、食事や水分の摂取量を記録している。摂取量が少ない場合は、本人の嗜好に合わせた代替や栄養補助食品にて必要な栄養の確保に努めると共に、必要があれば医師への相談を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーとなっており、廊下も広くエレベーターも設置され、入居者の移動に負担がかからない様配慮している。3階は天窓があり、採光が十分になされている。共有スペースには入居者の作品や行事の写真が掲示されていると共に、職員と入居者が共同で季節の飾り付けを行い、明るく楽しい雰囲気作りがなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みの物を自由に持込む事が可能であり、入居者が居心地良く生活出来る様に配慮されている。希望があれば畳を敷く事も可能となっている。全居室にエアコンが設置され、適切な空調管理がなされていると共に、洗面台が設置されている。また、一部トイレ付きの居室もあり、入居者の希望に合わせ部屋を選ぶ事が可能となっている。		